



柳中便り

平成30年9月20日（木）18号

能登町立柳田中学校

校訓：「進取」「協調」「努力」

＝ 3年生 作文 PART2 ＝

感動の中に

3年 4番 上野 結佳

今、体育祭を振り返って思うことは中学校3年間の中で、一番楽しかったということ・楽しくてあっという間に終わってしまったなと思ったことです。そんな中学校生活最後の体育祭で一番心に残ったこと・感じたことが三つあります。

一つ目は、応援でのよさこいです。練習のときは、順調に進んでいたけどしゃべっている時間が多かったり、集中できていなかったりという場面がありました。でも、団長や応援リーダーなどが「全部通して踊るよ」「声出してね」などという言葉をかけると、全員が真剣に取り組んでいてすごいと思いました。そして、本番のフレフレコールでは言葉を言うのがバラバラになってしまうところがあり、少し心残りがあります。でも、よさこいでは、練習の成果をすべて出しきり最高の演技ができたと思うので、良かったです。アンコールのピンク団でも、紅団・白団がそれぞれのいいところを出し、皆が楽しめる演技ができたと思います。団長の「やめ」の合図と同時に達成感もあり、とても心に残るよさこいでした。

二つ目は、PTA紅白玉入れでの親たちの活躍と感謝、そしてそこからの競技への姿勢です。前半では、ダブルハリケーン・柳中バトルファイターズと、どちらも負けてしまいました。そしていろんな人から「紅団に結構な差つけられてるらしいよ」「こっから巻き返していかないと負ける」などということを知り、もう優勝は無理かなと諦めていました。でも、その後のPTA紅白玉入れでの親たちの活躍、頑張っている姿を見て自分たちも明るく最後まで、負けても頑張ろうと思いました。そこからは流れが変わり、騎馬戦・大綱引き・紅白対抗全員リレーと勝つことができたので良かったです。負けからはいあがってこれたのは親たちの頑張りがあってこそだと思うので、とても感謝しています。

三つ目は、パネル製作で体育祭にあったものに仕上げるのが出来たと思えたことです。パネルを作成している時は、決った期間では間に合わず、ちゃんと仕上がるのかなという不安がありました。でも、完成したパネルを見て、一生懸命やったかいがあったなと思えたので良かったです。そして私は白団のパネルリーダーだったんだけど、紅団のパネルリーダーとも協力して進める事ができたと思います。皆がこのパネルを見て頑張ろうと思っていてくれていたらうれしいと思います。

体育祭前半では、負けそうだと思ってても暗くならず、明るく盛り上がっていて笑顔あふれていたのが良かったです。そして優勝する事ができてとてもうれしかったです。でも、もし負けても全部を出しきったので悔いの残らない体育祭になったと思います。これからも、何ごとにも前向きに取り組み、手を抜かず全力で頑張っていこうと思いました。

笑顔で溢れた思い出の1ページ

3年 7番 窪田 璃恩

中学校、平成最後の体育祭が終わってから今、思うことは、「最高に楽しかった！」です。最高に楽しい体育祭は全て心に残ったけど、その中でも特に心に残っていることは3つあります。

1つ目は、立体機動訓練（100m走）です。今まで藤村さんに体育祭の100m走で1度も負けたことがなかったけど、初めて負けて悔しい思いが残ったからです。最後に抜かれたのが一番悔しいです。悔しい中でも、やっぱり走ることが楽しいと思うことが出来ました。陸上の大会で走るのとは違った楽しさが立体機動訓練にはありました。

2つ目は、ダブルハリケーンです。ダブルハリケーンは最初の団体種目で緊張したけど、紅団のみんなが精いっぱい楽しもうとしている姿をみて一気に緊張がなくなりました。そして、自分も精いっぱい楽しむことが

出来ました。また、ダブルハリケーンの最中に紅団のもっている力に驚きました。その力は、「負けていても諦めないで追いつめようとする力」です。ダブルハリケーンで紅団は白団に途中まで負けていました。でも、紅団全員が諦めようとせず、「大丈夫、大丈夫！」、「まだまだいけるよ！」と声をかけあって追いつめました。そして、最後は白団に勝つことが出来ました。その時は、紅団全員で喜びあって、すごく楽しい時間でした。

3つ目は、今年で3年目となった柳中よさこいです。よさこいの振り付け担当になってみて、3年生の大変さが改めてわかりました。けど、自分たちの考えたよさこいを体育祭本番に、紅団全員で踊れたことがとっても嬉しかったです。私のよさこいでの目標は、笑顔で踊ることでした。最後の「U. S. A.」の部分が一番笑顔で踊れました。笑顔でよさこいを踊るという目標を達成できたのは紅団のみんなのおかげだと思います。なので、紅団のみんなに感謝です。3年目となった柳中よさこいで初めて「ピンク団」ができたことも思い出に残りました。今年の団は、両団ともノリがいいし、仲がよかったのでピンク団になったら、更に仲が深まり、踊りは違うけど、最高のよさこいになりました。紅団と白団のメンバーが交互に並んだ初の円陣も最高でした。

この日は、楽しすぎて時間がたつのを忘れてしまうほどでした。この体育祭はいろんな人のいろんな思いが詰まった体育祭だと思います。いろんな思いが詰まっているからいい体育祭になったと感じています。

中学、平成最後の体育祭、今、こうして特に心に残っていることを書き出しながら、一日を思い出してみても思うことは、やっぱり「最高に楽しかった！」です。悔しい部分もあるけど今までで一番楽しい体育祭でした。

楽しい体育祭になったのも紅団のみんなのおかげだと思うし、白団のみんなとも競い合い、一緒に盛り上げ合っただけだと思います。

紅団のみなさん、最高に楽しい体育祭と一緒に作り上げてくれてありがとう！このメンバーでたくさんのことをやり遂げられて良かったです！紅団、サイコーです！

最高な赤団

3年 10番 中口 乃恵

私が今、体育祭を振り返って感じることは、赤団がこのメンバーでよかったということです。

練習は、楽しさであふれていました。私が指示をしたことに対して「はい！！」と、良い返事を返してくれました。また、わからないところを自分から積極的に聞きに来てくれた人もたくさんいました。私にとって、それはすごくうれしかったです。楽しみながらも踊りを覚えるときは真剣でみんなの上達は本当に早かったです。だけど、グラウンドで踊ってみると、踊りが難しかったので、タイミングなどが合いませんでした。それを見て時間もないし、練習日も少なかったのも、私はすごく不安になりました。すると赤団の先生方が「もう少し縮まったほうがきれいに見える。」「もっとおもおしく」など、たくさんのアドバイスをしてくれました。どんな練習をしたらいいか不安になっていた私にとって先生からのアドバイスは本当に助けになりました。また、タイミングが合わなかった部分も皆で合わせて練習をしました。先生方や赤団の皆のおかげであ



まりそろっていない部分も改善されて、不安だったきもちもなくなって、早く体育祭で踊りたいって思うようになりました。

本番で踊り始めた時は、ただ楽しんでいました。皆の声も大きかったので、迫力はあったんじゃないかなと感じました。よさこいでは負けるつもりはひとつもなかったけど、得点板をみて自分たちが勝ったって分かった瞬間応援リーダーであった私からしたら本当にうれしかったです。

赤団のよさこいの振りで一番私が気に入ってた部分があります。それは野田原頭の3年生が出てくることです。多賀先生も、かつこ良かったと言ってくださったのが認められた感じがした心の中がホッとしました。

私は、あまり頼りない応援リーダーだったかもしれないけど、しっかり私の指示に従ってくれて、どんな注文を出されても、「嫌！」と言わず、一生懸命、練習をしてくれた1、2年生に本当に感謝しています。

最後に夏休みが始まる前からずっと一緒によさこいの振りを考えてきた、赤団の応援チームの皆にも感謝しなくてはいけないなって思いました。朝から夕方まで練習したり考えたりもして、お互い支え合えていたので良いチームワークだったんじゃないかなと思います。また、パネルの人たちも教えるのが少し雑で早かったのにも関わらず、短期間で振りを覚えてくれて頑張ってくれたなって思います。練習し始めてから今まで赤団がこのメンバーだったからこそ、楽しかったなって思えるような思いでを作れたと思うので、このメンバーは、最高だと改めて感じました。

3年間の中で一番

3年12番 中村 紗貴

今年の体育祭は、3年間のなかで一番思い出深いものになったと思います。なぜなら、例年に増して楽しく、そして悔しかったからです。感想を書くために振り返っている今も、その気持ちが色濃く残っています。

私は、体育祭を楽しかったと言い切れると同時に、そんな自分に少し驚いています。運動も周りのみんなと盛り上がるのも下手な私にとって体育祭は気が重い行事という認識が強いものでした。ですが今年は、その気づまりのこと以上に楽しく笑顔で挑戦できた競技がたくさんあったように思えます。そしてそれは、団のみなさんや3年生が前向きな雰囲気で明るく盛り上げてくれていたのが大きな理由だと思いました。

今年は自分たちがよさこいを伝える立場で、団長副団長、応援リーダーを中心に一生懸命練習したり、本番もぎりぎりの点差で白熱して、自然と全力になり楽しめました。楽しめたことが嬉しかったです。

どんなに楽しくても勝敗が決まるのが体育祭の中でも大きなポイントです。今年、私が所属していた赤団は惜しくも負けてしまいました。リレー終了時の勝敗が決まった瞬間、赤団3年生の目が潤んで、言葉が少なくなったことが鮮明に思い出せます。競技前、山ノ内さんが全員に向けて頑張ろうと言ってくれたり、東又さんが勝りたい、と本気をこぼしていたのも聞いて、足を引っ張ってしまったことが一層悲しく、悔しかったです。

涙の絶えなかった解団式にも、少しよかったと思えることがありました。それは、1・2年生の中でも泣いている人がいたことです。泣いてしまう結果だということは不甲斐ないし悔しいのですが、泣いてしまうくらいに思いを込めて体育祭に挑んでくれていたのがわかる気がして、3年生としては嬉しかったからです。赤団が、団長を先頭に団結できていた証に思えました。

私は、3年間のなかで勝ちも負けもどちらも経験することができました。勝つことができた時は団員みんな喜びを感じることができ、やはり体育祭は勝てるに越したことはないのかもしれませんが。今年の解団式で、話しながら涙を流す3年生や、じっと俯いているメンバーを見て、なおのことそう思います。ですが今年は負けてしまいましたが得られたものもありました。全力を出して協力し、笑顔で挑戦した末の負けだったからこそ、この大きな悔しさを知ることができたのだと思います。あの悔し涙を赤団のあのメンバーで共通して感じる機会はまだ二度とないので、それもいい経験なのかもしれないと思うことができます。そういう意味で、体育祭は勝敗はどうあれ全力で挑めば得られるものもある行事なのかなと思いました。

最後の体育祭で、楽しめたこととその嬉しさ、これまでにない悔しさを噛みしめたことで、自分の3年間のなかで一番思い出深い体育祭になりました。



感謝 3年 13番 東又 小佳美

体育祭が終わった今、私が思うことは「やっぱり私たちのクラスってすごいな」ということです。私たちは中学生になって、2回の体育祭を経験してきたけど、今までにないくらい短い練習期間でした。騎馬戦も全校リレーも担当する放送委員会のアナウンスもぶっつけ本番だったのに、「今日誰それがいないから代わりにやってくれる？」などの、お互いを思いやる心が3年生の中にありました。

体育祭で私が3年生のすごさを感じた時はたくさんあったけど、その中で今一番鮮明に思い出せるのは大きく分けて3つあります。

まず1つ目は、体育祭が始まる前の出来事でした。3年生は準備があるから7時半集合ということでしたが、ほとんどの人が7時に集まって後輩のためにあることをしました。それは、1、2年生の黒板にメッセージを書いたことです。「ありがとう」「最高の体育祭にする」などのメッセージが書かれました。自分たちのことだけでなく後輩のことも考えられる学年なんだと感じました。

2つ目は、よさこいのアンコールでピンク団が結成されたことです。そこで初めて全校で円陣をしました。でも、すごいと思ったのはそこじゃなくて、円陣を、紅白紅白紅白…のように紅白きっちり混ざって一致団結したことです。私たちが1年生の時から、アンコールで紅白一緒によさこいをするのはお決まりだけど、オリジナルの部分で紅白の振りが揃うのは初めてで、3年間の中で一番楽しいよさこいになりました。

最後は、閉会式が終わっての3年生の記念撮影です。負けた紅団がひがむでもなく、優勝した白団が自慢するでもなく、「3年生」としての団がありました。ポーズも、流行りの逆さピース、侍ポーズ、よさこいの決めポーズ、肩組んで…など、3年生らしい雰囲気でした。3年生のパネル部の人たちが頑張って描いてくれた絵の前で全員で写真を撮ることができて嬉しかったです。

9日に行くはずが雨で平日になってしまったり、給食があったり、午前の部が早く終わりすぎてしまったりなどと、今年の体育祭はビックリすることも多かったです。そんなハプニングにも対応して、最高の体育祭にすることができたのでよかったです。

体育祭が終わって、色々な先生方や保護者の方が「楽しかった」と言ってくださいました。私たちだけでなく、見てくださった方も「楽しい」と思ってもらえたこと、すごく嬉しく思いました。

私たちは3年生なので、こうやって1つ1つの行事が終わっていくのはとても寂しいなと思います。でも、「最後」だからこそ、今までで一番いいと思える行事にできます。

3年生のみんな、ありがとう。次は柳中祭で限界突破！楽しんでいきましょう！

